

# 次時につながる課題で授業と家庭学習をサイクル化

## 宮城県 登米市立北方小学校

授業と家庭学習の相乗効果により、「活用する力」の育成を図ろうとしている登米市立北方小学校。次時の学習内容に関連した学習事項を家庭学習の課題とすること、両者の「サイクル化」を目指した「登米っ子学習」を取り入れている。

### 取り組みのポイント

- 家庭学習に、次時の授業での学習事項につながる「登米っ子学習」課題を取り入れ、授業と家庭学習をサイクル化している
- 「登米っ子学習」課題により、授業では「学び合い」の時間を確保。「活用する力」と共に、家庭学習への意欲も育む

#### 課題

#### 宿題に意義を見いだせず 家庭学習への意欲が低下

静かな田園地帯にある北方小学校は、保護者や地域住民の多くが同校の卒業生だ。地域と一体感の強い環境の中で、子どもは伸び伸びと学んでいる。研究主任の金野ゆかり先生は、学校の様子を次のように話す。

「素直で純朴、のんびりとした優しい性格で、教師に言われたことはきちんと出来るのが、本校の子どもの良さです。その反面、自分の考えを主張する積極性に欠けることが気に掛かっています」

#### S c h o o l D a t a

◎1873(明治6)年開校。  
校区は田畑などの自然環境に恵まれる。2005年度から3年間、文部科学省の学力向上拠点形成事業の指定を受け、授業力向上に取り組んだ成果が現在の研究に生かされている。



校長 伊藤 清先生

児童数 211人 学級数 8学級(うち特別支援学級1)

所在地 〒987-0513 宮城県登米市迫町北方字富永110-5

TEL 0220-22-2286

URL <http://www.cms-school.jp/kitakata/>

公開研究会 未定

課題解決のために自分の考えをまとめた  
り、相手に説明したりする力を付けたいと考  
え、2008年度から「活用する力」を高  
める指導方法の工夫・改善」を研究テーマに  
掲げてきた。09年度からは、友だちとの「学  
び合い」によって自分の考えを発展させてい  
く活動をより重視している。

ねらいの達成に向け、同校は授業力の向上  
と同時に家庭学習の充実が必要だと考えた。  
しかし、大きな課題として、宿題と授業との  
「関連」の弱さがあった。子どもによっては、  
基礎・基本の習熟を図るプリント学習などに  
意義を見いだせず、意欲が湧きにくかった。  
また、学級により家庭学習の質・量に差があっ

# 授業づくりと共に深める家庭学習

た。学校行事などには協力的な保護者も、「宿題は子どもが一人で取り組むもの」という考えから、家庭学習にかかわらないことがあり、家庭との連携にも改善の余地があった。

## 家庭学習の位置付け

### 授業とのサイクル化を図り宿題とは明確に区別

これらを踏まえ、09年度に「登米っ子学習」という、授業と家庭学習のサイクル化を図る学習形態を全校で取り入れた。「登米っ子学習」は市内の公立小・中学校で一斉実施している取り組みだが、その取り組みの方法はさまざま。同校の特色は、授業と家庭学習を連動させる中で「学び合い」を重視する点にあり、国語と算数で取り入れている。

サイクル化とは、日々の授業と家庭学習を継続的に関連付けて行うことだ。授業は家庭学習での課題を基に進められ、授業の終わりには次時へつながる新たな家庭学習課題が出される。このサイクル化の鍵となる家庭学習が「登米っ子学習」課題だ。本時の問題場面を把握する課題や、レディネスをそろえる課題を出し、授業と家庭学習の相乗効果で「活用する力」の育成につなげる。「登米っ子学習」課題は各授業のまとめの段階で出され、授業の中でペアやグループで課題の結果を発表したり話し合ったりして、学びを深めていく。

「登米っ子学習」課題は、5〜10分程度で取り組める難易度・分量としている。分からない問題や時間のかかる問題に直面した時、子どもは学習意欲を失いやすい。まずは家庭学習の習慣化が先決と考え、「誰でも少し考えれば出来る」というレベルに設定している。国語・算数としたのは負担軽減のためだが、どちらもほぼ毎日授業があり、サイクル化しやすいからでもある。「登米っ子学習」が教師にも子どもにも定着した今は、他教科で「登米っ子学習」を取り入れることもある。伊藤清校長は、「子どもも教師も、続けられなければ定着しません。子どもが『嫌だな』と感じることなく、前向きな気持ちで取り組める学習でありたいと考えています」と話す。

毎日の家庭学習としては、「登米っ子学習」課題と共に漢字学習、音読、プリント学習（計算問題など）の宿題、その他に自主学習を課す学年もある。分量は、「登米っ子学習」課題と合わせて「学年×10分間」で取り組める程度だ。宿題は基礎・基本の定着のため、自主学習は自分で内容を考えて学習に向かう姿勢を身に付けるためと位置付けている。

## 「登米っ子学習」の具体例

### 「登米っ子学習」課題により

### 授業での「学び合い」の時間が充実

2年生国語の「組み合わせたことばをつか

おう」の授業を通して、「登米っ子学習」の実践を見てみよう（P.12 図1）。

子どもは「登米っ子学習」課題として「ふみつぶす」などの複合動詞が何と何の動詞の組み合わせかをあらかじめ考えてきた。担任の大崎元寛先生は次のように話す。

「前時との間に連続性が保たれるのが、『登米っ子学習』の大きな利点です。また、家で学習してきたことに関連した授業内容のため、子どもは自信を持って授業に臨めるようです」

授業の冒頭で前時の学習内容を確認した



**伊藤 清** Ito Koichi  
登米市立北方小学校校長  
「教師の在り方で子どもの将来は変わる。常に真摯な気持ちで、子ども一人ひとりと向き合いたい」



**金野 ゆかり** Kinno Yukari  
登米市立北方小学校  
研究主任。「失敗を恐れて自分から動かない子どもに、『やれば出来る』という勇気や積極性を与えたい」



**菅原 真理** Sugawara Mari  
登米市立北方小学校  
4学年担任。「親や友だちなど、周囲の人への感謝の気持ちを忘れない子どもを育てたい」



**大崎 元寛** Osaki Motohiko  
登米市立北方小学校  
2学年担任。「勉強や友だちとの交流など、あらゆる場面で笑顔が絶えない学級をつくりたい」

## 図1 「登米っ子学習」を取り入れた授業の流れ

### 2年生国語

単元名 **組み合わせたことばをつかおう**

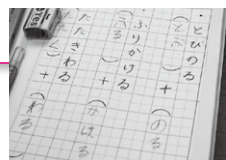
本時の目標 いろいろな複合動詞について、その意味や使い方を考える

授業者 大崎元寛先生

◎前時に与えられた「登米っ子学習」課題  
組み合わせた三つのことばについて、どのようなことばが組み合わせ  
てあるかを考えてくる

前時までの学習内容をフラッシュ形式で確認

前時に与えられた「登米っ子学習」課  
題の答えをペアで確認（「学び合い」）



グループごとに、「登米っ子学習」課題で考えてきた言葉（三つ）の中から一つを選び、動作化して発表する（「学び合い」）

「登米っ子学習」課題で取り組んだ言葉（三つ）の中から一つを選んで短文をつくる

◎本時に与えられた「登米っ子学習」課題  
教科書に書かれている組み合わせたことばから一つを選び、ノートに文を書いてくる（学習内容の定着を図る）

### 事後検討会で出された意見・感想（一部）

#### □ 良かった点

- 「登米っ子学習」課題が生かされ、話し合いが活発に行われていた
- 複合動詞をグループごとに三つに絞ったことで集約しやすく、イメージが浮かび、動作化によって理解を深められた

#### □ 更に工夫・改善が必要な点

- 授業の中で、動作化の部分は少し時間を減らし、短文をつくる時間にもう少し時間をかけた方がよかったのではない
- 複合動詞の意味理解をより深化させるといった点からも、例えば、「はく」と「あつめる」、そして「はきあつめる」のそれぞれの動作を考えることなどを「登米っ子学習」課題に出来たのではない

\*同校の資料と事後検討会の様子を基に、編集部が一部抜粋して作成

研究推進」「家庭学習推進」のいずれかのプロジェクトに所属する。「登米っ子学習」にかかわるのは、「授業研究推進」「家庭学習推進」のプロジェクトだ。「授業研究推進プロジェクト」は授業研究会を通して「登米っ子学習」課題の設定や授業との関係性を研究し、「家庭学習推進プロジェクト」では家庭学習の習慣化に向けて子どもや保護者に働き掛ける。

授業研究会では、全学級担任

後、隣の子とペアになって「登米っ子学習」課題の答えを見せ合い、違いがあれば自分の考えを相手に説明する。「学び合い」によって理解を深められるだけでなく、友だちに発表する場があることが、家庭学習の動機付けになり、習慣化につながっている。

「『学び合い』は重要な学習活動ですが、時間がかかるのが難点です。『学び合い』に必要となる個人で考える部分やそのための準備を『登米っ子学習』課題が担っているため、

授業で『学び合い』の時間を十分に確保できるようにになりました。これにより『活用する力』を育みたいと考えています」（金野先生）

一人ひとりが言葉の意味を考えてきていたため、4人グループでの学習活動でも活発な話し合いが出来ていた。

本時の「登米っ子学習」課題は、「教科書に書かれている組み合わせたことばから一つを選び、ノートに文を書いてくる」。複合動詞の更なる理解を図り、次時につなげるためにこの内容にしたという。

### 研究の進め方

#### 授業研究会を通じて

「ちょっとした課題でよい」と確認

「登米っ子学習」は従来の宿題と視点が異なるため、当初は教師から「授業での生かし方が分からない」「難易度の設定が難しい」という声があった。ねらいや実践の共通理解に大きな役割を果たしたのは、授業研究会だ。同校では、教師全員が「学力向上」「授業

が年1回授業を担当する。事前検討会では模擬授業を行い、「登米っ子学習」課題からの授業の流れも検討する。研究授業では、議論を焦点化するため「登米っ子学習」課題の評価も含めた「授業評価シート」を使用。すぐに集計し、事後検討会の話し合いに活用する。ワークショップ形式の事後検討会は、皆が積極的に発言する風通しの良さが特長だ。伊藤校長は、授業研究会についてこう説明する。「授業研究会の活性化には、経験や立場にかかわらず、同じ目線で語り合う雰囲気づくりが重要です。私や教頭も参加し、先生方と本音をぶつけ合い、切磋琢磨しています」

授業研究会での検討を基に、授業研究推進プロジェクトが作成した課題例、ねらい、効果のリストも共通理解を促した（図2）。

# 授業づくりと共に深める家庭学習

図2 「登米っ子学習」課題例、ねらい、効果のまとめ

4年生算数		
単元名 はしたの大きさの表し方を考えよう		
「登米っ子学習」課題例	◆ねらい ◎授業での活かし方	効果
教科書 p.60の 数直線に目盛り を付ける	◆小数も数直線に表すことができることを理解する ◎目盛りの大きさを確認させ、数直線上に書かれた大きさを読ませる 【知識を習得する】	数直線での表し方に興味を持たせることができた
教科書 p.62の 問題文を読み、 立式をする	◆数の構成を理解する ◎正確に10等分されていることを確認する 【知識を整理する】	1目盛りの大きさを全体で確認でき、スムーズに適用問題に取り組むことができた。また、学習の効率化が図られた

\*同校資料「『登米っ子学習』課題例」より編集部が一部抜粋して作成

「最初の1年間ほどの教師も試行錯誤でしたが、研究を通してイメージを共有する中で、『ちょっとした課題でよいのだ』という理解が広がりました」（金野先生）

「登米っ子学習」課題はあくまでも次時の「入り口」に立たせる内容に設定するとよいことも見えてきた。例えば、算数では立式までを課題とし、計算の仕方は授業で扱う。家庭学習で計算をさせると、「またやるのか」と授業への意欲が削がれるからだ。

授業とのサイクルを進めるポイントとしては、事前に課題を確定させないことも大きい。ある程度は想定しておくが、授業の進捗や子どもの理解に合わせて調整することが大切と、4学年担任の菅原真理先生は話す。

「子どもの状況を第一に考えて課題を決め

**成果**

**授業改善が進むと共に  
家庭学習への意欲が高まる**

「登米っ子学習」により、何より授業改善が進んだと金野先生は話す。

「授業に『学び合い』が定着したことは、『活用する力』の育成において大きなプラスです。子どもたちが授業に意欲的に取り組む姿にもつながっていると思います」

教師の指導力も高まっている。

「『登米っ子学習』課題の設定の必要性から、

ることが最も大切です。レイネスをそろえるために予習の意味合いが強い課題を出すつもりだったとしても、授業の理解度が低ければ、復習の課題に変えます。子どもによって理解度は異なりますので、学級全体の実態を捉えた臨機応変な課題設定が求められます」

保護者には、「一人で取り組むもの」という宿題のイメージを変えるため、保護者会や書面で「登米っ子学習」のねらいを説明し、「家庭学習には必ず目を通してほしい」と、家庭学習のチェックシートへの記入も依頼した。

「宿題といえばドリルをイメージする保護者が多く、『登米っ子学習』を理解してもらうには少し説明が必要でした。今では保護者の大半が賛同し、『登米っ子学習』の内容を気に掛け、協力してくれています」（大崎先生）

## 伊藤校長が重視する

### 校長としての役割

先生方が働きやすい環境づくりが、校長の一番の仕事だと思えます。教具の整備から職員室の雰囲気づくりまで、すべきことは山ほどあります。教師が生き生きと授業をするようになれば、子どもは「今日はこれが出来た。明日は何が出来るようになるのかな」といった学びへの楽しみを持つようになるのです。

すべての子どもが、学習の充実、交友関係を中心とした学校生活の充実、そして、出来れば家庭生活での安心を感じながら伸び伸びと過ごすために、学校は何をすべきか。教師として、校長として、考え続けたいと思います。

以前よりも見通しを持って授業を組み立てるようになりました。加えて教師間の情報交換が密になったり、教材研究に力を入れるようになったりと、多くの面から授業力が磨かれているのを感じます」（菅原先生）

家庭学習習慣の定着も進んでいる。「登米っ子学習」を行うには、基礎的な内容理解が土台として必要だ。「登米っ子学習」課題に取り組む中で、自ら基礎・基本の定着につながる宿題の意味を感じ、宿題に対しても前向きに取り組む子どもの姿が見られるようになった。「登米っ子学習」を軸として、授業と家庭学習のサイクルは順調に回り始めている。